

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年4月24日

喫煙者はmRNAワクチン接種後の副反応が多いようだ：パイロットスタディ

【松崎雑感】

初期的な研究報告です。

mRNAワクチン接種後の発熱などの副反応が、喫煙者に多いようだというデータです。発熱は別として、筋肉痛とか悪寒は、主観的症狀なので、喫煙者における疼痛閾値が低下していることによるものかもしれませんが、いずれにせよ、タバコを吸わない方が、苦痛少なく人生がおくれるということかもしれません。

喫煙者はmRNAワクチン接種後の副反応が多いようだ：パイロットスタディ

Ponticelli D, Losa L, Campagna D, et al. **Smoking habits predict adverse effects after mRNA COVID-19 vaccine: Empirical evidence from a pilot study** [published online ahead of print, 2023 Mar 21]. *Public Health*. 2023;219:18-21. doi:10.1016/j.puhe.2023.03.013

目的

mRNAワクチン接種による副反応が喫煙者に多いかどうかを検討する。

方法

イタリアのヘルスケアワーカーを対象とした追跡観察調査。ファイザービオンテックワクチンあるいはモデルナワクチン接種後（1, 2, 3回目）の副反応発生率を調査（紙巻きタバコ喫煙本数、喫煙年数、電子タバコ使用）。

結果

調査対象者320名のうち72名（22.5%）が紙巻きタバコ喫煙者、50名（15.6%）が電子タバコ使用者、デュアルユーザーが49名。

非喫煙者と比較して、紙巻きタバコ喫煙者では、有意に筋肉痛、関節痛（1～2回目）、悪寒（1～3回目）が多く見られた（2倍前後：松崎）。喫煙本数の増減と電子タバコ使用によっては、一定の副反応増減傾向は見られなかった。喫煙年数の長い人々では3回目接種後に頭痛が多く見られた（次スライド参照。小さいので、ウェブからPDFをダウンロードしてご覧ください）。

結論

今回のパイロットスタディでは、喫煙者でワクチン接種後の副反応が多い可能性が示された。これらの調査結果は、とりわけ喫煙習慣の有無に関して、ワクチン接種後の副反応出現率の個人差を解明するうえで有用な情報となるだろう。

本文の抜粋

…タバコ使用は、自然免疫と獲得免疫機能に影響を及ぼす。とりわけ、T細胞機能の抑制と免疫記憶細胞の分泌能力、適応免疫反応進行に必要な抗原介在シグナリングの障害をもたらすことが、ワクチン接種後の副反応増強に関連しているのかもしれないが、十分な研究が必要である。…

